

8 歯・口の健康について

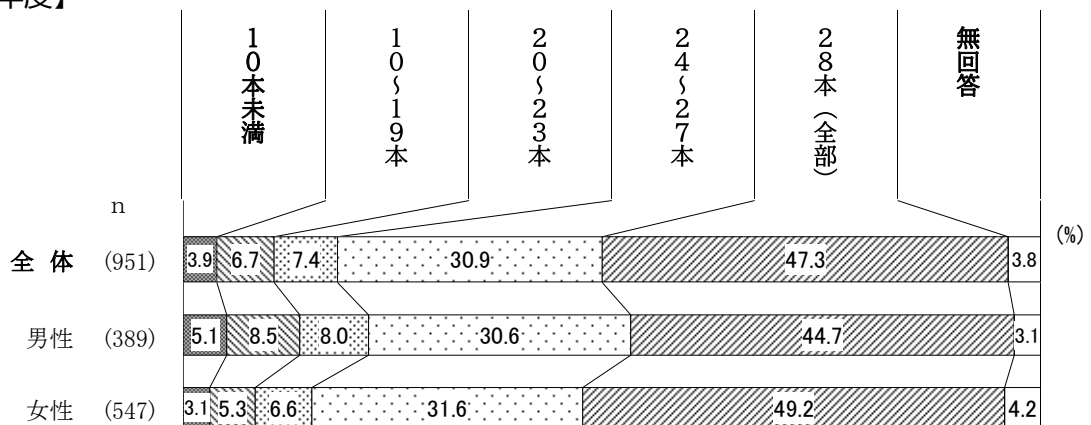
(1) 歯の本数

◇平均本数は24.8本で、「28本（全部）」は約5割

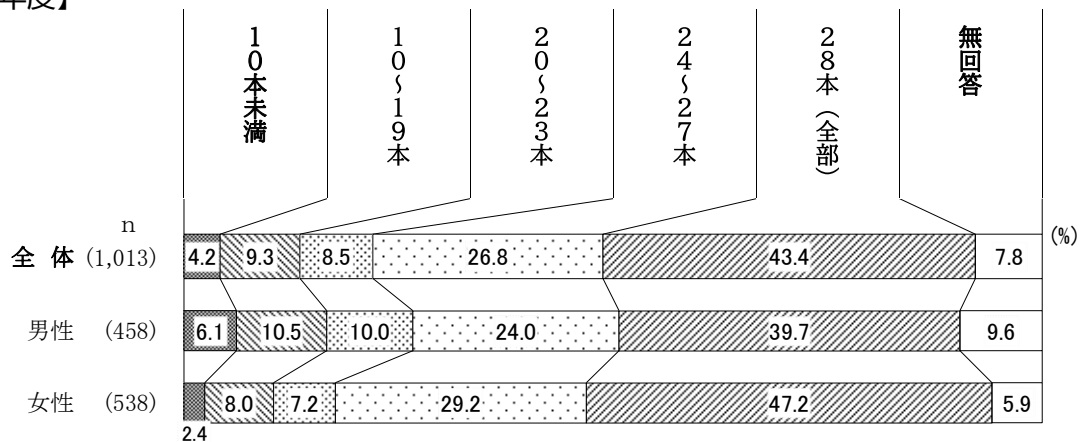
問49 あなたの歯の数は何本ですか。

<図表Ⅲ-8-1> 歯の本数

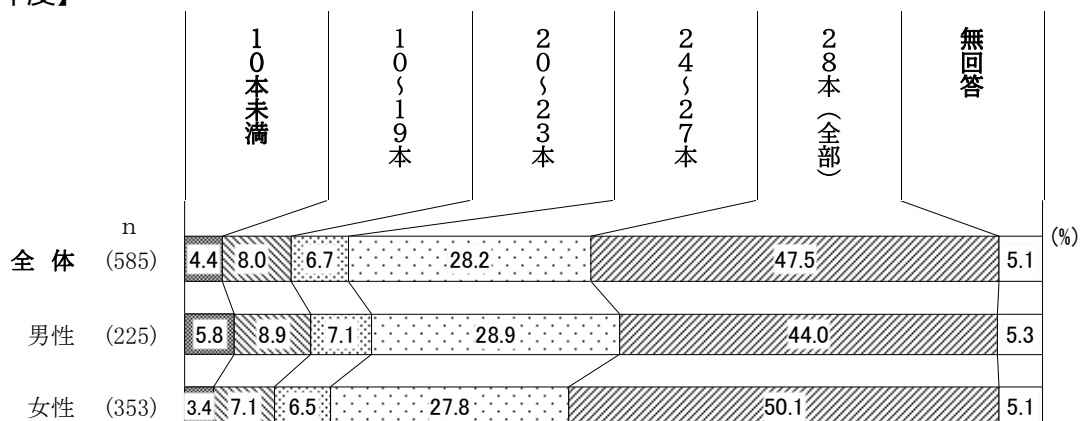
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



歯の本数を聞いたところ、平均本数は24.8本となっている。構成比は「28本（全部）」（47.3%）が約5割と最も高く、次いで「24～27本」（30.9%）が3割となっている。

性別で見ると、男性の平均本数が24.3本、女性の平均本数は25.2本となっており、女性が男性より多く、その差は0.9本となっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では特に大きな違いはみられない。性別では、男性は平成29年度から「24～27本」が6ポイント、「28本（全部）」が5ポイント増加している。（図表Ⅲ－8－1）

【性／年齢別】

<図表Ⅲ－8－2>

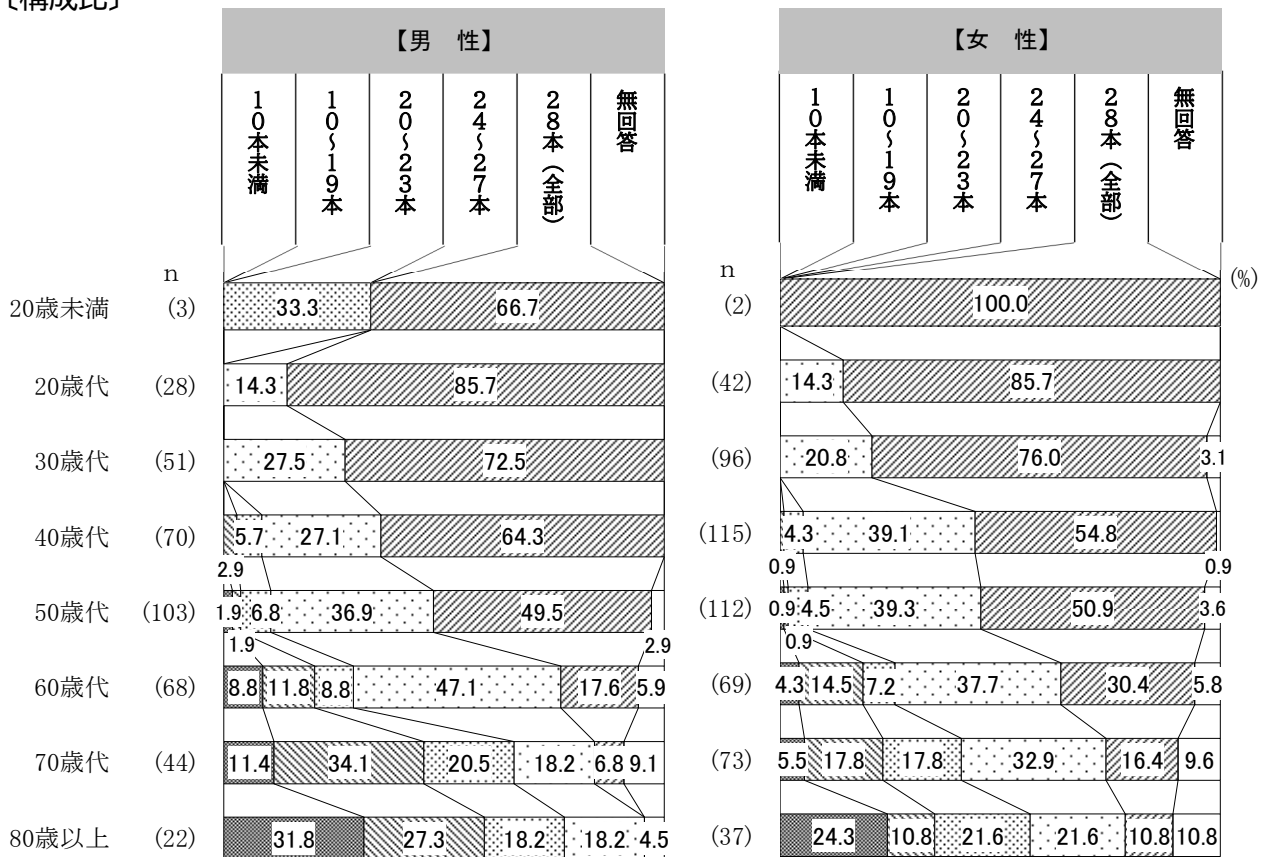
〔平均本数〕

(本)

	全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
全体	<u>24.8</u>	<u>26.4</u>	<u>27.7</u>	<u>27.4</u>	<u>26.5</u>	<u>26.3</u>	<u>22.7</u>	<u>20.3</u>	<u>16.4</u>
男性	<u>24.3</u>	25.3	27.8	27.4	26.7	26.1	22.2	17.9	14.1
女性	<u>25.2</u>	28.0	27.7	27.5	26.5	26.4	23.4	21.6	17.8

※「全体」には、太字で下線を施している。

〔構成比〕



※男女ともに30人に満たない年齢層は、人数が少ないので、参考として掲載するのみに留め、文中では述べていない。

男女ともに、平均本数は年齢が上がるにつれ減少している。

《20本未満》は、男性が70歳代で4割台半ば、60歳代で2割、女性が80歳以上で3割台半ば、70歳代で2割台半ばとなっている。60歳代は《24本未満》の比率も重要であるが、男性で約3割、女性で2割台半ばとなっている。また、「28本(全部)」は、男女ともに年齢が上がるにつれ減少し、男性の70歳代で6.8%、女性の80歳以上で10.8%となっている。一方、『8020運動』の視点から、《20本以上》に着目すると、女性の80歳以上で54.0%と5割台半ばになっている。(図表Ⅲ－8－2)

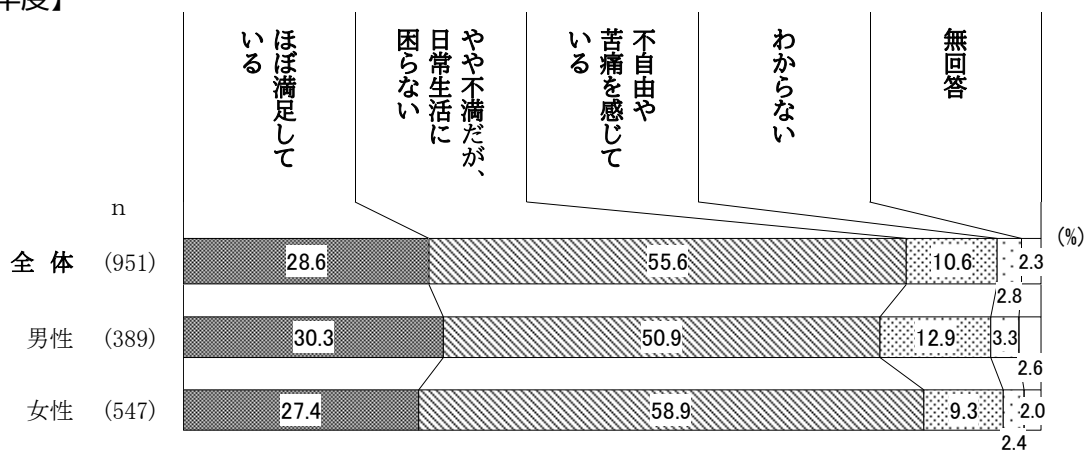
(2) 歯や歯ぐきの状態

◇「ほぼ満足している」は約3割

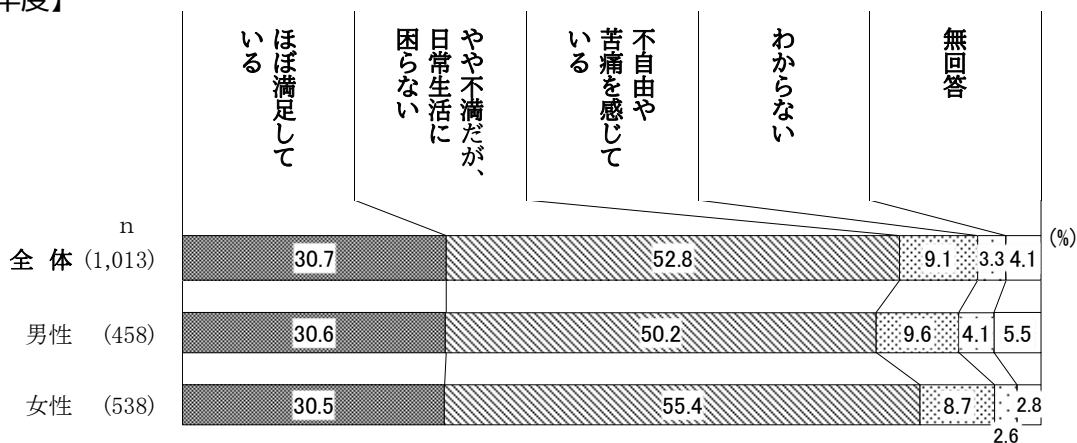
問50 あなたは、歯や歯ぐきの状態について、どのように感じていますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅲ-8-3> 歯や歯ぐきの状態

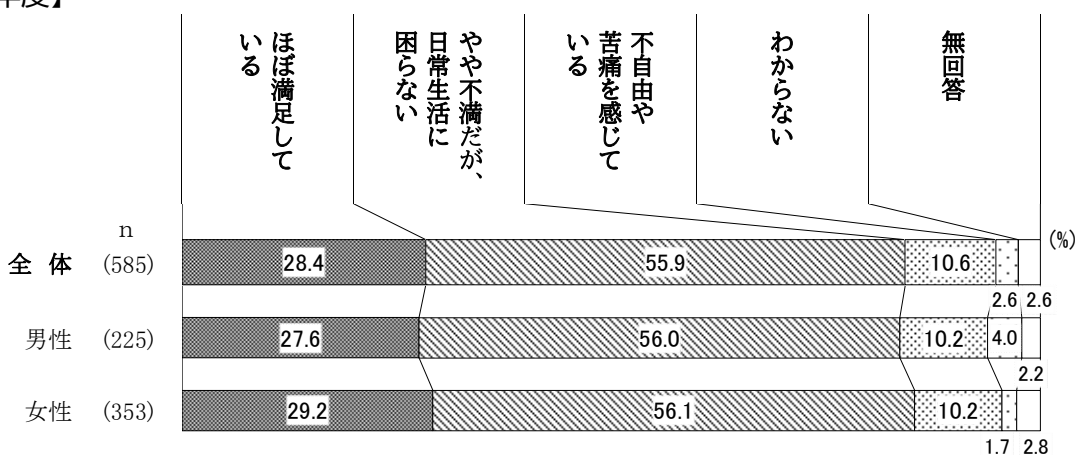
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】

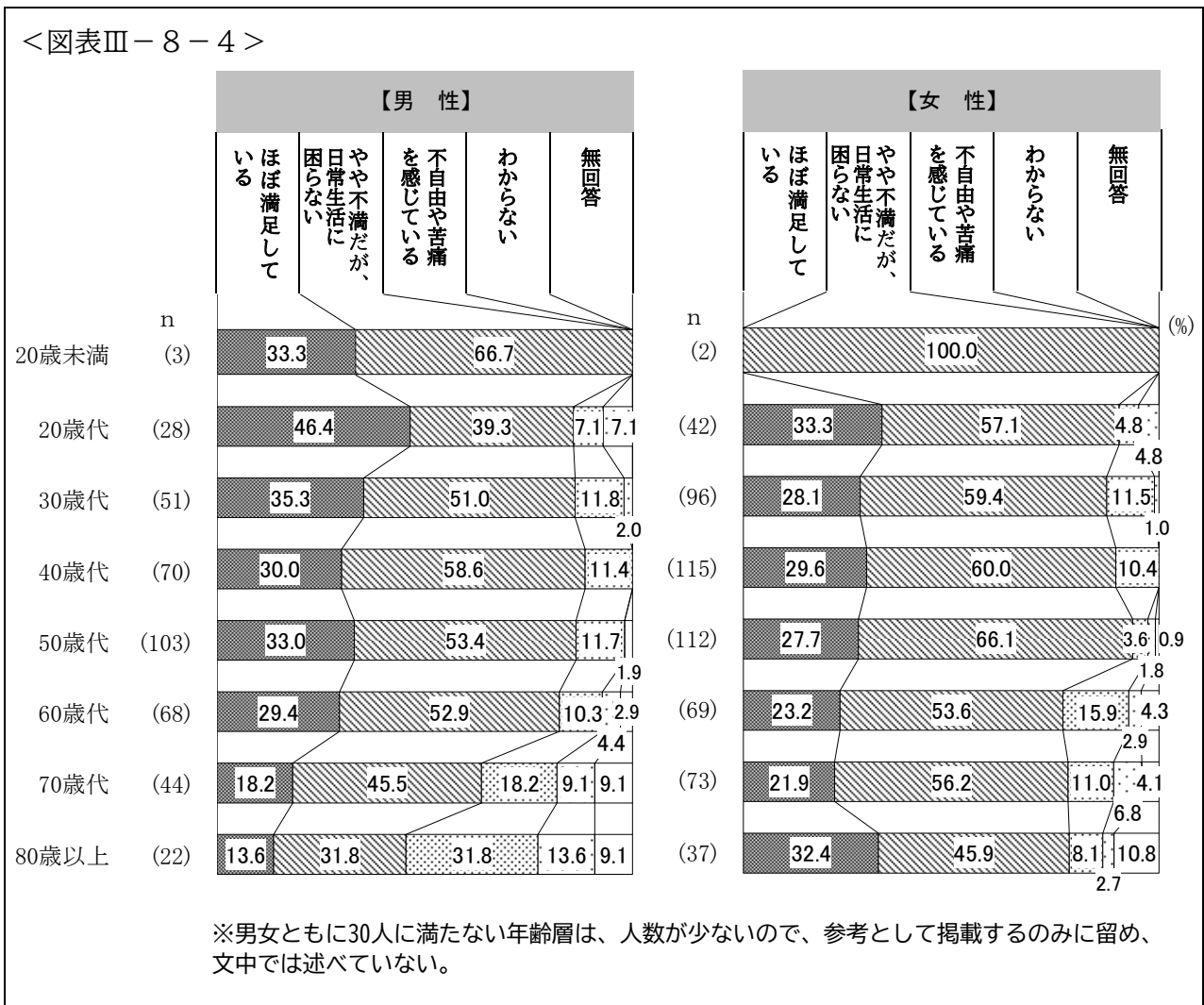


歯や歯ぐきの状態に、「ほぼ満足している」(28.6%)は約3割、「やや不満だが、日常生活に困らない」(55.6%)が5割台半ばとなっている。一方、「不自由や苦痛を感じている」(10.6%)が1割となっている。

性別で見ると、「やや不満だが、日常生活に困らない」は女性が男性より8ポイント高く、約6割となっている。

過去の調査結果との比較では、全体、性別ともに特に大きな違いはみられない。(図表Ⅲ-8-3)

【性／年齢別】



男性では「ほぼ満足している」は、30歳代で3割台半ばとなっており、おおむね年齢が上がるほど漸減している。「やや不満だが、日常生活に困らない」は40歳代が約6割、30歳代、50歳代、60歳代で5割台となっており、「不自由や苦痛を感じている」は70歳代で約2割となっている。女性では「ほぼ満足している」が20歳代、80歳以上で3割台、30歳～50歳代で約3割となっている。「やや不満だが、日常生活に困らない」は50歳代の6割台半ばが最も高く、80歳以上を除き5割台から6割で推移しており、「不自由や苦痛を感じている」は60歳代が1割台半ばでやや高くなっている。(図表Ⅲ-8-4)

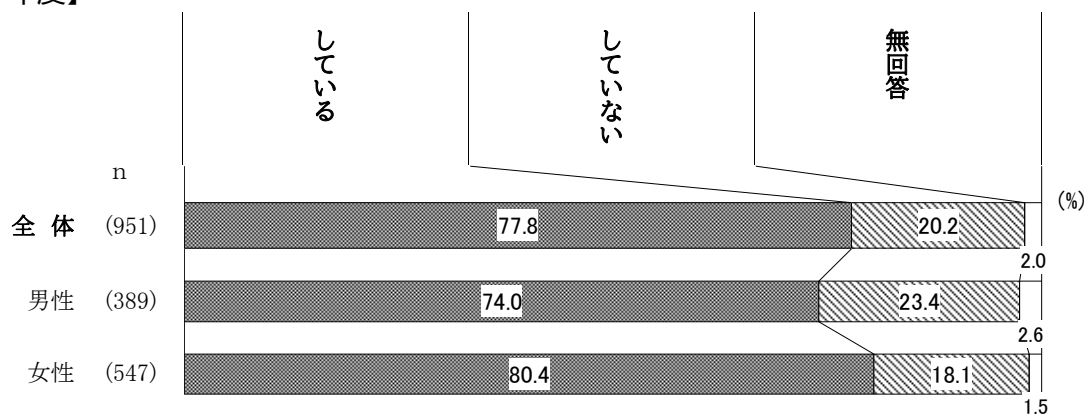
(3) 1日1回は1本ずついねいに歯を磨く習慣

◇「している」が約8割

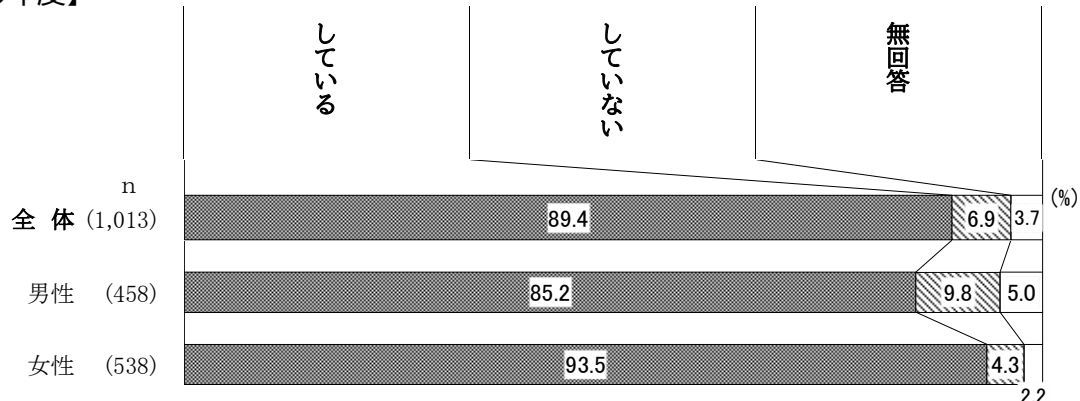
問51 あなたは、1日1回はていねいに歯を磨くようにしていますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅲ-8-5> 1日1回は1本ずついねいに歯を磨く習慣

【令和5年度】



【平成29年度】

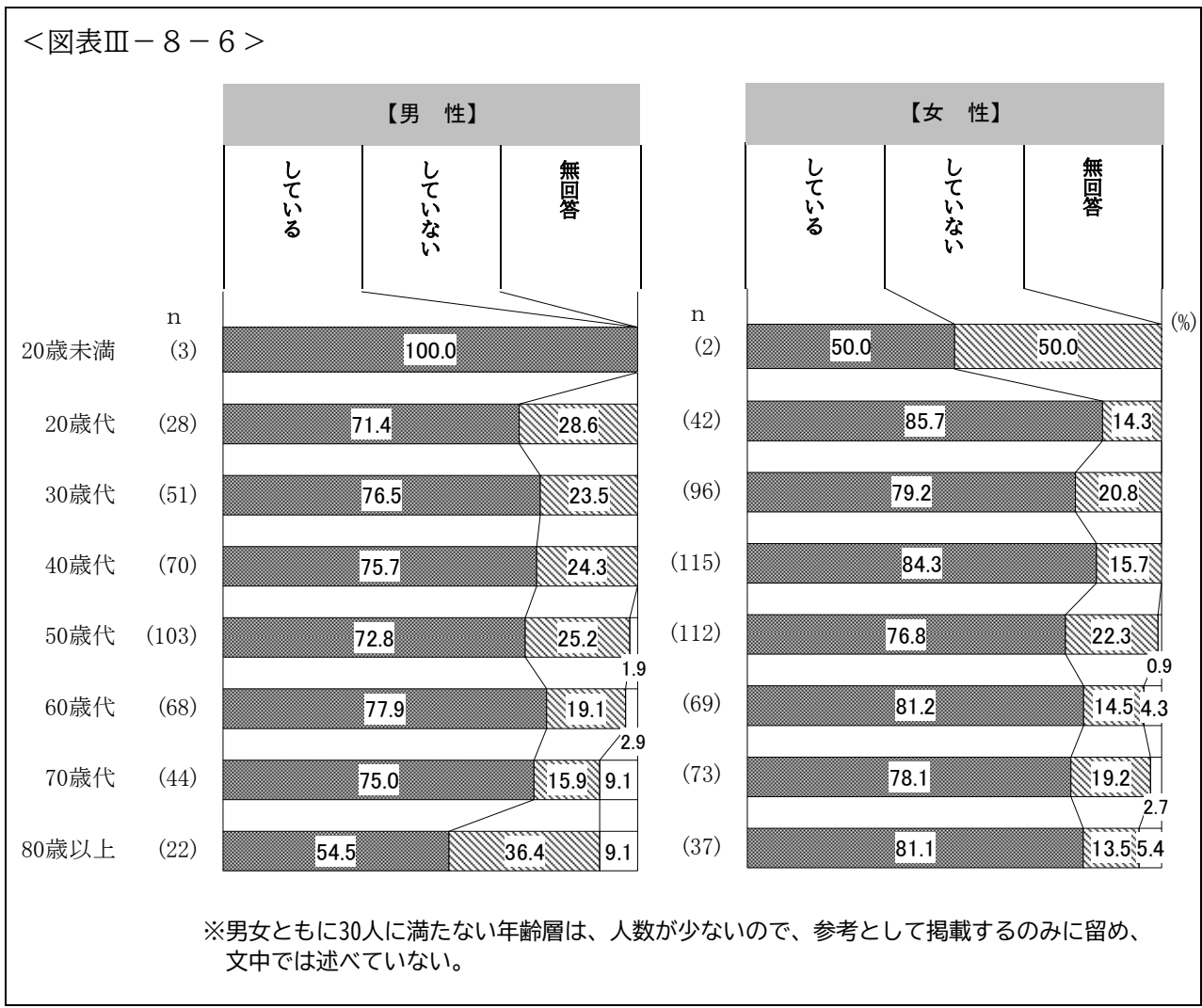


1日1回は1本ずついねいに歯を磨く習慣の有無を聞いたところ、「している」(77.8%)は約8割、「していない」(20.2%)は2割となっている。

性別で見ると、「している」は女性が男性より6ポイント高く、8割、「していない」は男性が女性より5ポイント高く、2割台半ばとなっている。

平成29年度の調査結果と比較すると、全体では「している」が11ポイント減少している。性別では、男性が11ポイント、女性が13ポイント減少している。(図表Ⅲ-8-5)

【性／年齢別】



男性では「している」は、すべての年齢層で7割台となっている。女性では「している」は、20歳代、40歳代が8割台半ば、60歳代、80歳以上が8割を超えている。(図表Ⅲ－８－６)

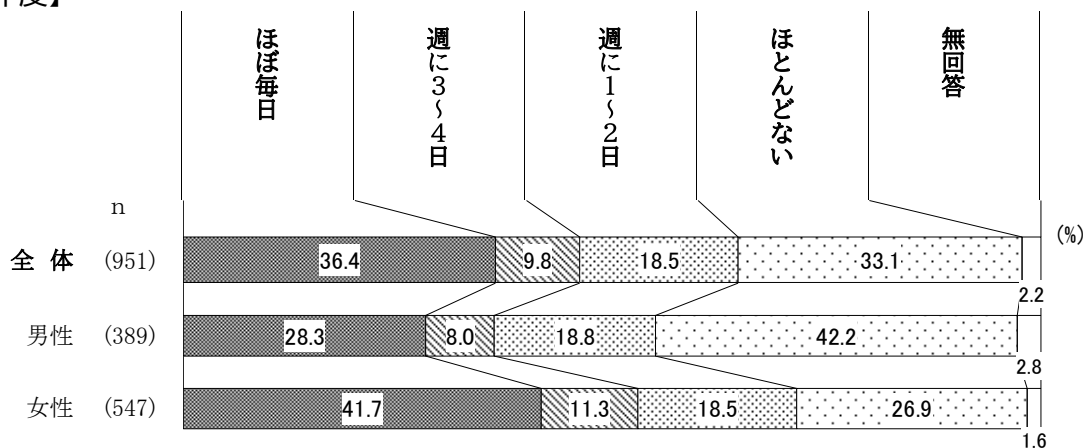
(4) デンタル・フロスや歯間ブラシの使用頻度

◇「ほぼ毎日」と「ほとんどない」が3割台半ば

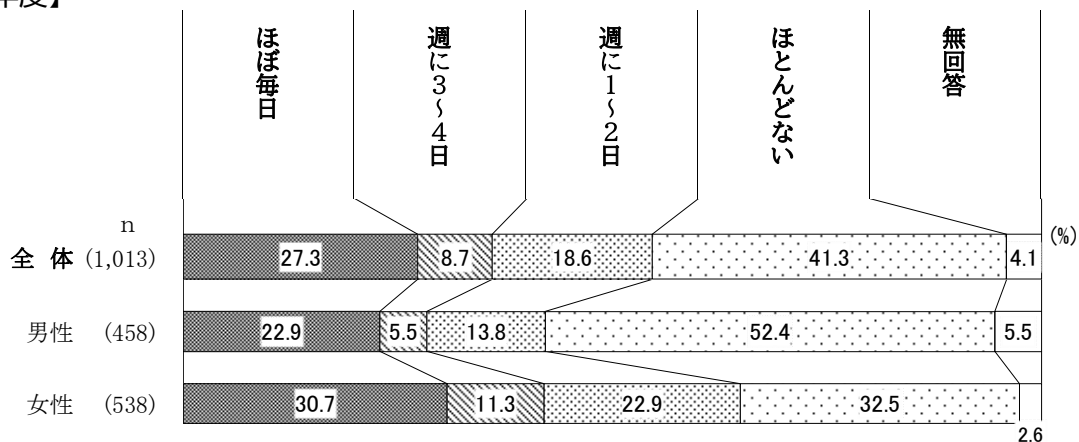
問52 あなたは、デンタル・フロス（糸ようじ等）や歯間ブラシを使っていますか。
 (○は1つだけ)

<図表Ⅲ-8-7>デンタル・フロスや歯間ブラシの使用頻度

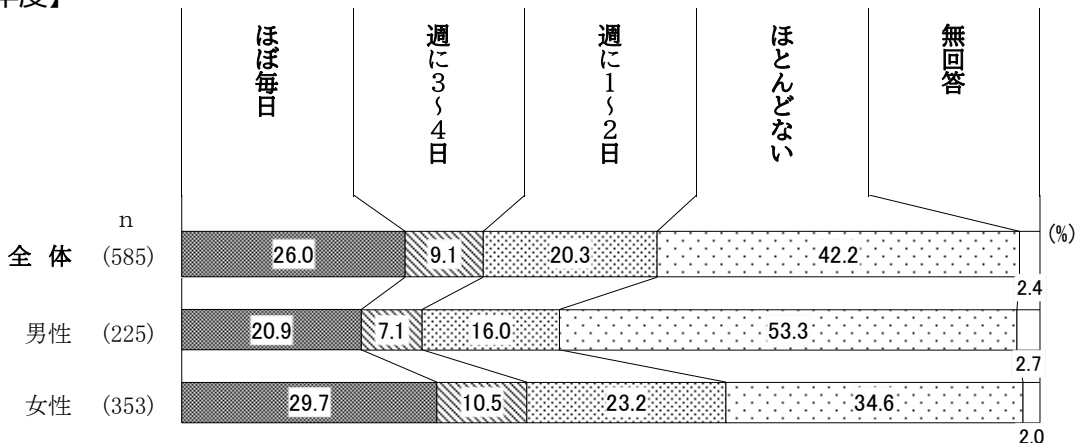
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】

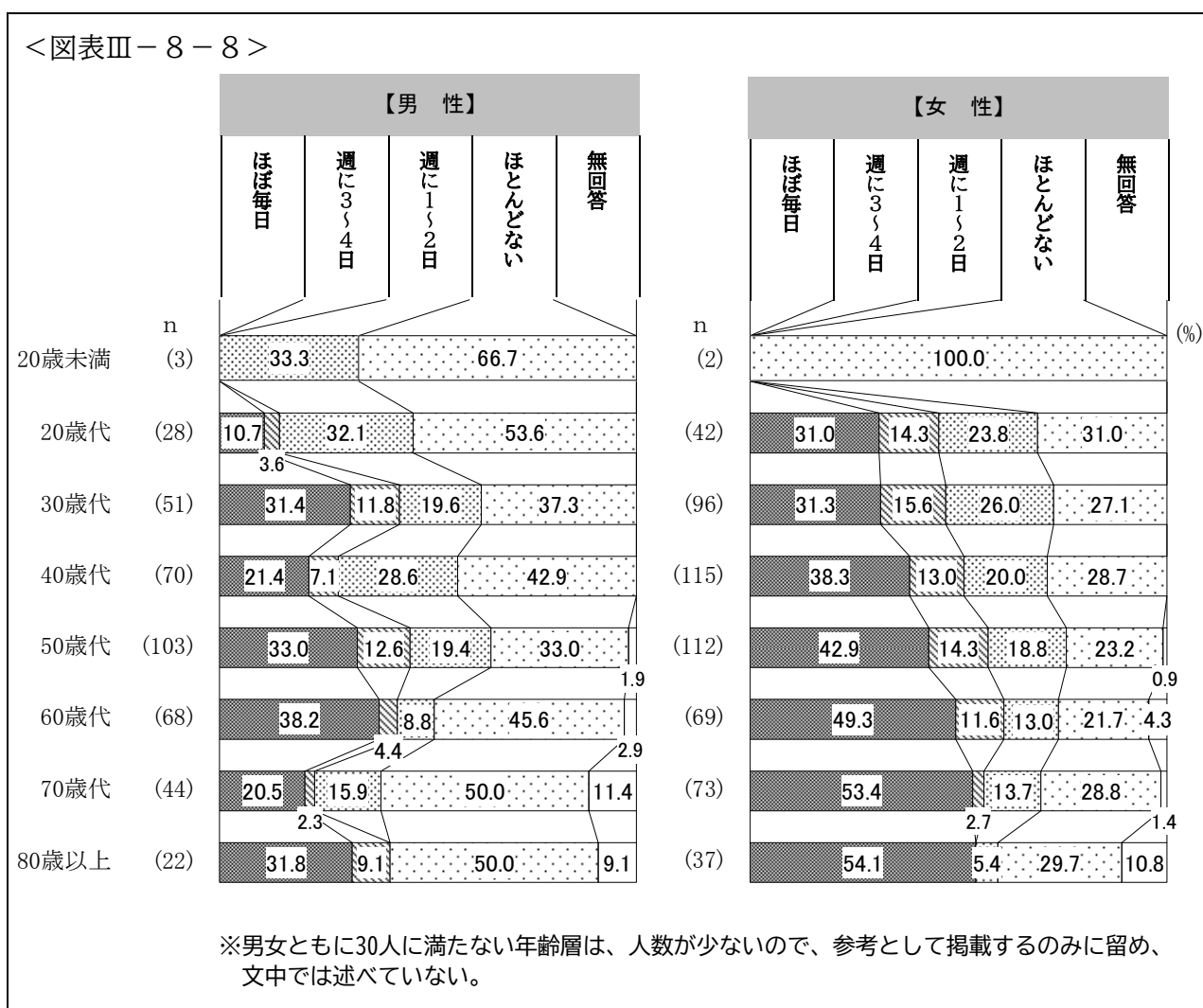


デンタル・フロスや歯間ブラシの使用頻度を聞いたところ、「ほぼ毎日」(36.4%)、「週に3～4日」(9.8%)、「週に1～2日」(18.5%)までを合わせると、「《使用している》」(64.7%)は6割台半ばとなっている。一方、「ほとんどない」(33.1%)は3割台半ばとなっている。

性別で見ると、「《使用している》」は女性が男性より16ポイント高く、7割を超え、「ほとんどない」は男性が女性より15ポイント高く、4割を超える。

過去の調査結果と比較すると、全体、性別とも平成25年度から平成29年度にかけては大きく変わらないが、今回「《使用している》」が増加し、全体で10ポイント、男性で12ポイント、女性で6ポイント、それぞれ増加している。また、女性は「ほぼ毎日」が11ポイント増加している。(図表Ⅲ-8-7)

【性／年齢別】



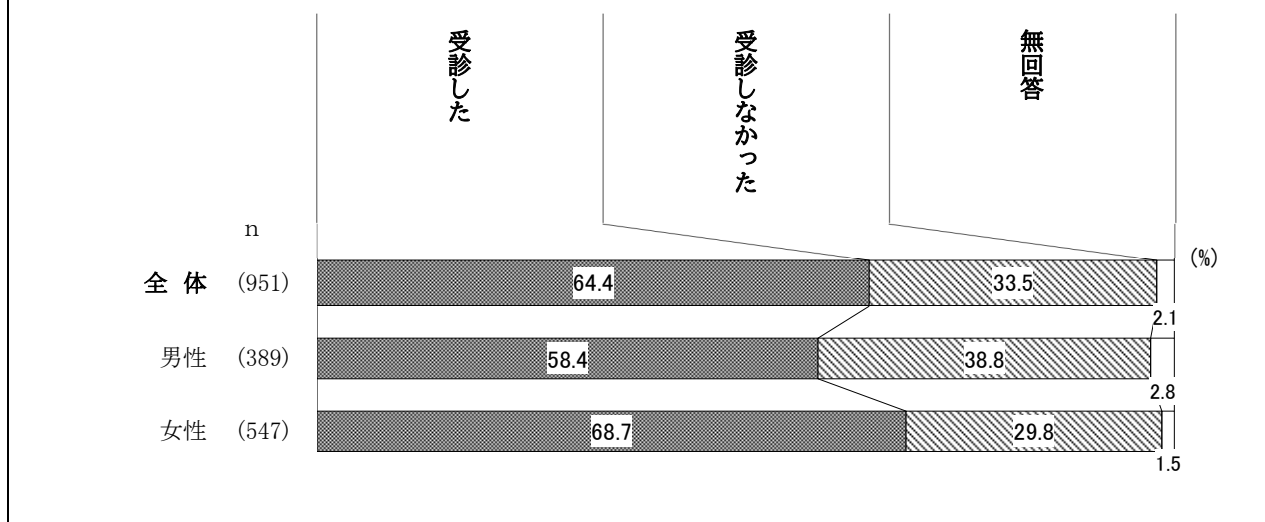
男性では「《使用している》」は、50歳代が6割台半ば、30歳代が6割を超えている。「ほとんどない」は、70歳代が5割と高い。女性では「《使用している》」は50歳代、60歳代が7割台半ば、30歳代40歳代が7割を超え高くなっている。「ほぼ毎日」は、80歳代以上が5割台半ばと最も高く、年齢が上がるにつれ漸増している。(図表Ⅲ-8-8)

(5) 過去1年間の歯科検診受診の有無

◇「受診した」は6割台半ば

問53 あなたは、過去1年間で歯科検診を受診しましたか。(○は1つだけ)

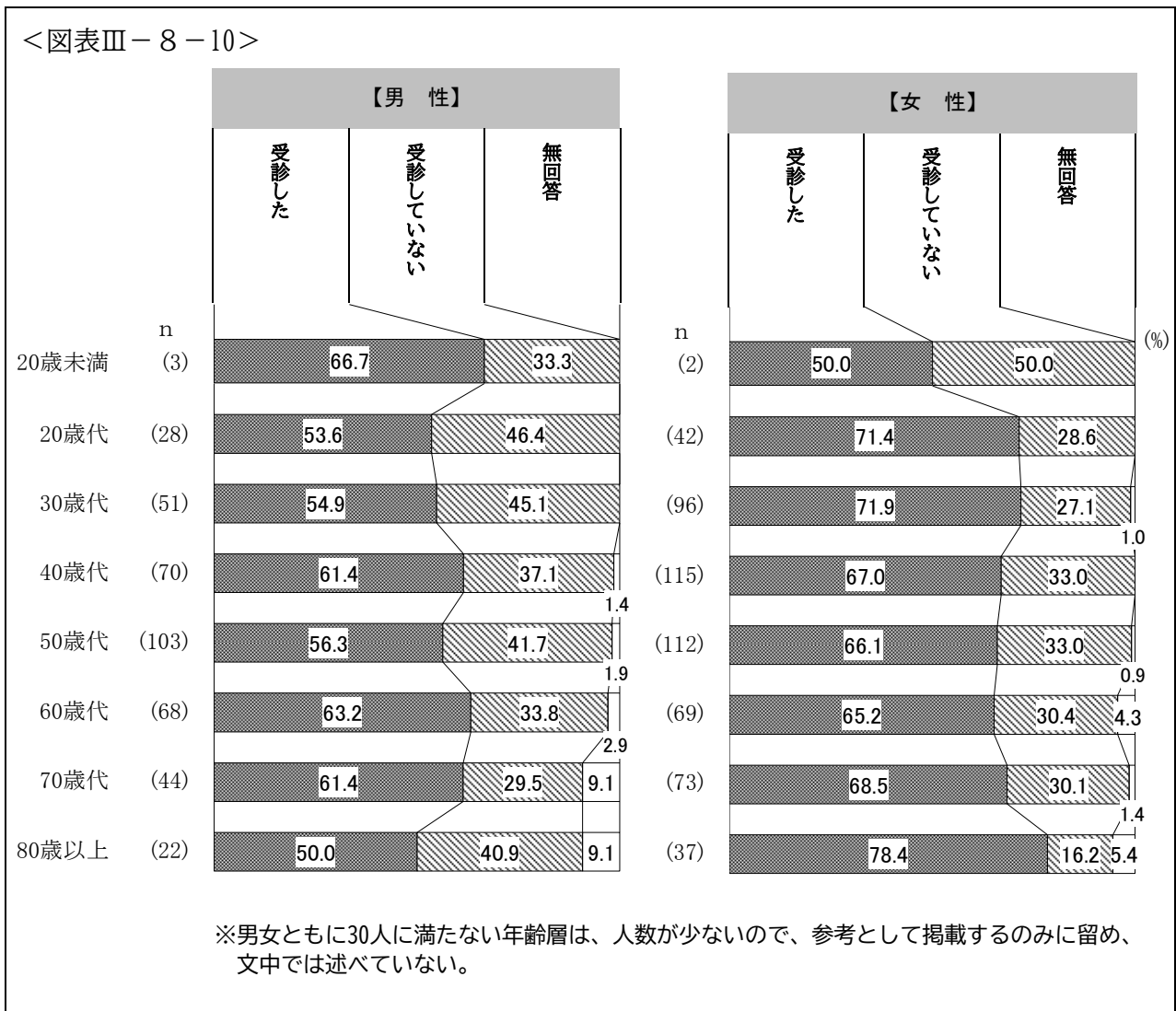
<図表Ⅲ-8-9>過去1年間の歯科検診受診の有無



過去1年間で歯科検診を受診したか聞いたところ、「受診した」(64.4%)が6割台半ば、一方、「受診しなかった」(33.5%)は3割台半ばとなっている。

性別で見ると、「受診した」は女性が男性より10ポイント高く、約7割、「受診しなかった」は男性が女性より9ポイント高く、約4割となっている。(図表Ⅲ-8-9)

【性／年齢別】



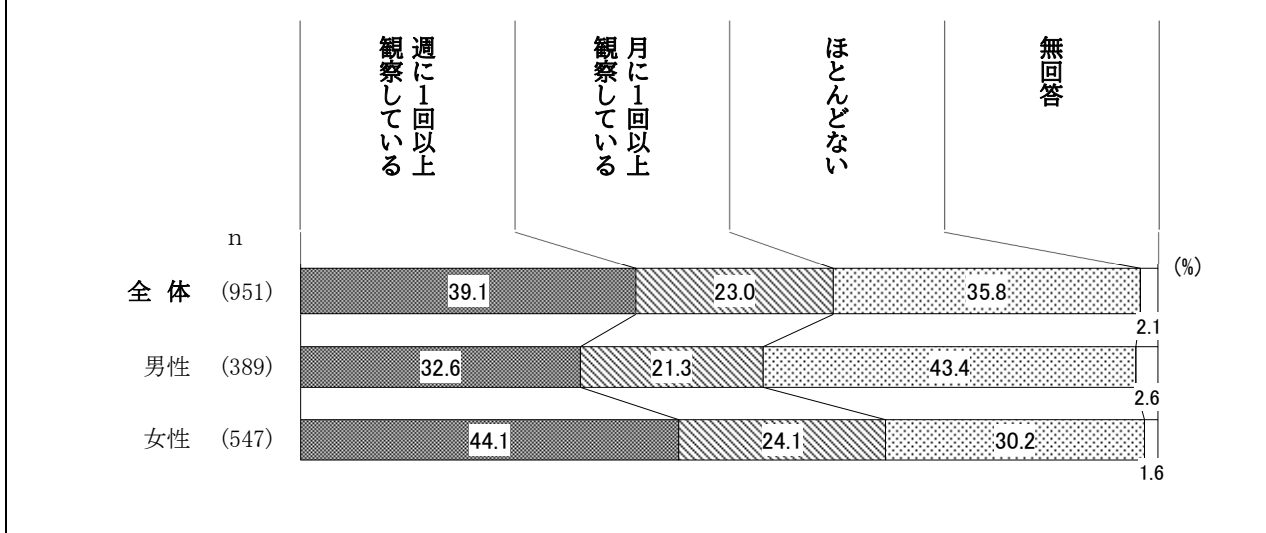
男性では「受診した」は、40歳代、60歳代、70歳代以上で6割台となっている、女性では「受診した」が80歳以上で約8割と高く、20歳代、30歳代でも7割を超えている。(図表Ⅲ－８－１０)

(6) 歯や歯ぐきの観察習慣

◇「週に1回以上観察している」が約4割

問54 あなたは、鏡などを使って、歯や歯ぐきの様子を自分で観察することがありますか。
(○は1つだけ)

<図表Ⅲ-8-11> 歯や歯ぐきの観察習慣

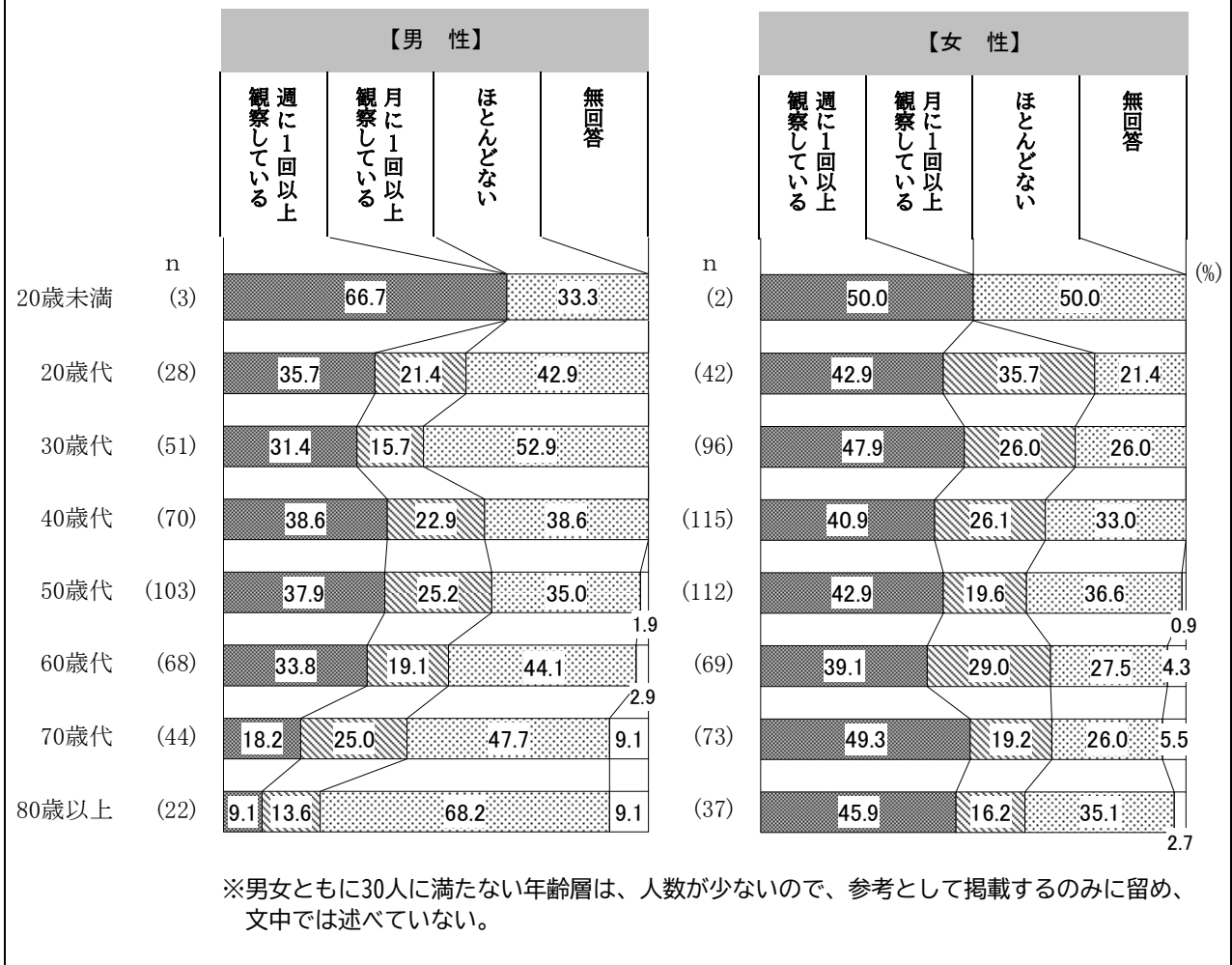


鏡などを使って、歯や歯ぐきの様子を自分で観察することがあるか聞いたところ、「週に1回以上観察している」(39.1%)が約4割、「月に1回以上観察している」(23.0%)が2割台半ばで、それらを合わせた《観察している》(62.1%)は6割を超えている。

性別で見ると、「週に1回以上観察している」は女性が男性より11ポイント高く、4割台半ば、《観察している》でも14ポイント高く、約7割となっている。「ほとんどない」は男性が女性より13ポイント高く、4割台半ばとなっている。(図表Ⅲ-8-11)

【性／年齢別】

<図表Ⅲ－8－12>



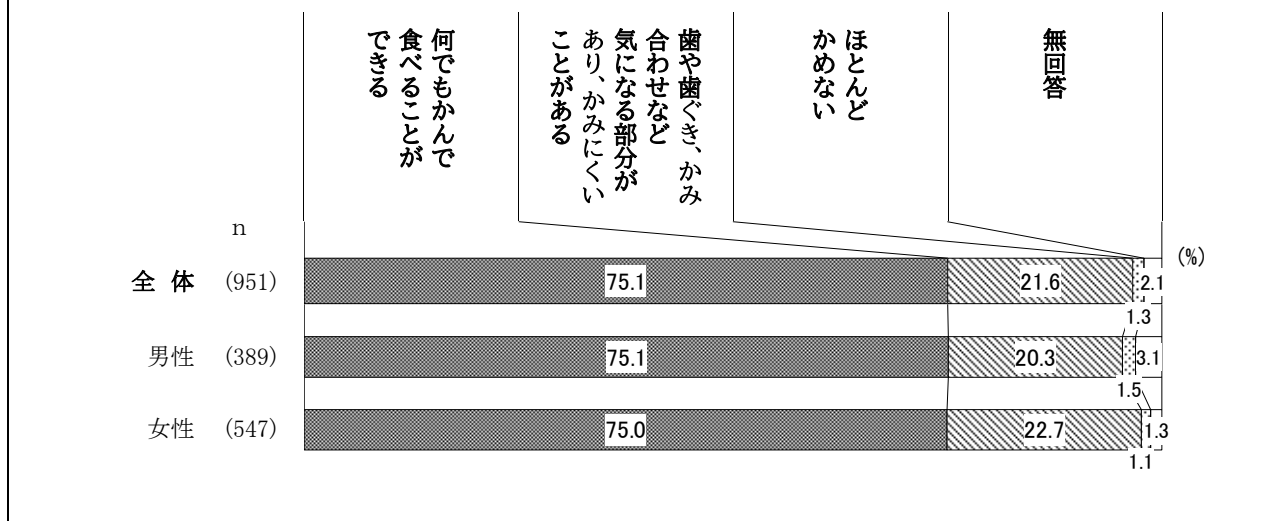
男性では「週に1回以上観察している」は、70歳代を除き3割台で、「観察している」では、40歳代、50歳代で6割台となっている。「ほとんどない」は30歳代で5割を超えている。女性では「週に1回以上観察している」は、30歳代、70歳代が約5割で、「観察している」では、20歳代が約8割、30歳代が7割台半ばと高くなっている。「ほとんどない」は、40歳代、50歳代、80歳以上で3割台半ばとなっている。(図表Ⅲ－8－12)

(7) 食事をかんで食べる時の状態

◇「何でもかんで食べることができる」が7割台半ば

問55 食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅲ-8-13>食事をかんで食べる時の状態

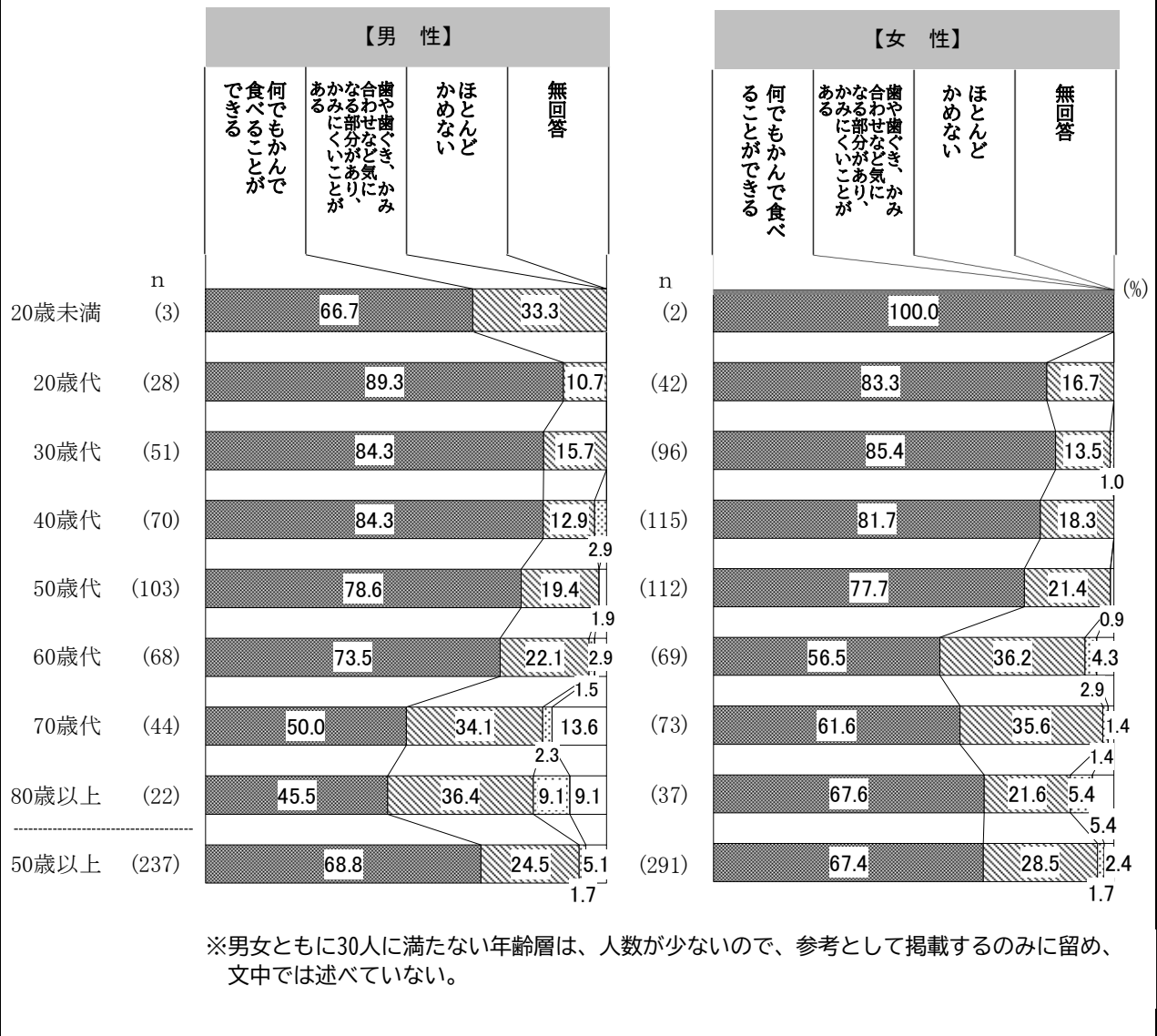


食事をかんで食べる時の状態を聞いたところ、「何でもかんで食べることができる」(75.1%)が7割台半ば、「歯や歯ぐき、かみ合わせなど気になる部分があり、かみにくいことがある」(21.6%)が2割を超えている。

性別では、特に大きな違いはみられない。(図表Ⅲ-8-13)

【性／年齢別】

<図表Ⅲ－8－14>



男性では「何でもかんで食べることができる」は、30歳代、40歳代で8割台半ばと高く、年齢が上がるにつれ60歳代までは漸減し、70歳以上で5割と大きくに減少している。「歯や歯ぐき、かみ合わせなど気になる部分があり、かみにくいことがある」は、70歳代で3割台半ばとなっている。また、50歳以上で「何でもかんで食べることができる」は約7割となっている。女性では「何でもかんで食べることができる」は、20歳代、30歳代が8割台半ばと高くなっている。「歯や歯ぐき、かみ合わせなど気になる部分があり、かみにくいことがある」は、60歳代、70歳代で3割台半ばと高くなっている。また、50歳以上で「何でもかんで食べることができる」は約7割となっている。(図表Ⅲ－8－14)

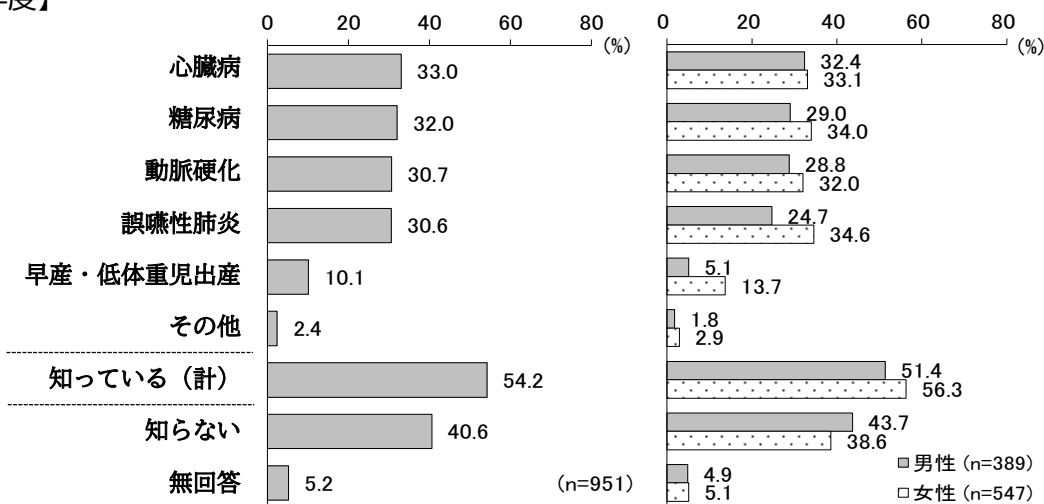
(8) 歯周病が悪影響を及ぼす病気

◇、「心臓病」「糖尿病」「動脈硬化」「誤嚥性肺炎」が3割台

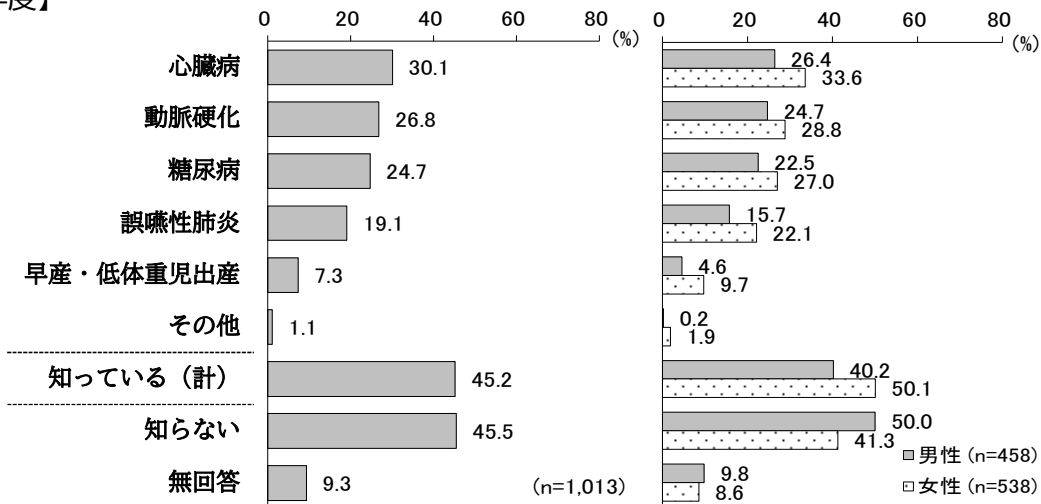
問56 歯周病が悪影響を及ぼすと思う病気について知っているものを、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

<図表Ⅲ-8-15> 歯周病が悪影響を及ぼす病気

【令和5年度】



【平成29年度】



歯周病が悪影響を及ぼす病気について聞いたところ、「心臓病」(33.0%)が3割台半ばで最も高いものの、「糖尿病」(32.0%)、「動脈硬化」(30.7%)、「誤嚥性肺炎」(30.6%)が3割～3割を超えていて4項目で拮抗している。また、ひとつでも「知っている」(54.2%)という方の合計は5割台半ばとなっている。一方、「知らない」(40.6%)は4割となっている。

性別で見ると、女性が男性より「糖尿病」は5ポイント高く、3割台半ば、「誤嚥性肺炎」は9ポイント高く、3割台半ばとなっている。一方、「知らない」は男性が女性より5ポイント高く、4割台半ばとなっている。

平成29年度の調査結果と比較すると、全体では「誤嚥性肺炎」が11ポイント、「糖尿病」が7ポイント増加し、「知っている」でも9ポイントの増加となっている。性別では、「誤嚥性肺炎」は男性が9ポイント、女性が12ポイント、「糖尿病」は男性が6ポイント、女性が7ポイント、「心臓病」は男性で6ポイント、それぞれ増加している。また、「知っている」では、男性が11ポイント、女性が6ポイント増加している。(図表Ⅲ－8－15)

【性／年齢別】

<図表Ⅲ－8－16> (全項目)

			n	動脈硬化	心臓病	誤嚥性肺炎	糖尿病	早産・低体重児出産	その他	知らない	無回答	
性／年齢別	男性	20歳未満	3	66.7	66.7	33.3	33.3	-	-	33.3	-	
		20歳代	28	17.9	25.0	25.0	10.7	-	-	57.1	3.6	
		30歳代	51	29.4	31.4	19.6	29.4	5.9	2.0	49.0	2.0	
		40歳代	70	30.0	35.7	21.4	35.7	8.6	4.3	45.7	1.4	
		50歳代	103	32.0	36.9	29.1	30.1	2.9	1.0	42.7	1.9	
		60歳代	68	29.4	35.3	35.3	29.4	11.8	-	39.7	5.9	
		70歳代	44	25.0	22.7	15.9	29.5	-	4.5	38.6	11.4	
		80歳以上	22	22.7	18.2	9.1	22.7	-	-	36.4	22.7	
	女性	20歳未満	2	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
		20歳代	42	16.7	21.4	21.4	26.2	14.3	2.4	59.5	-	
		30歳代	96	22.9	29.2	28.1	35.4	18.8	-	41.7	5.2	
		40歳代	115	33.0	35.7	33.0	30.4	14.8	1.7	43.5	1.7	
		50歳代	112	41.1	43.8	43.8	43.8	11.6	5.4	29.5	0.9	
		60歳代	69	46.4	34.8	44.9	39.1	17.4	5.8	29.0	5.8	
		70歳代	73	31.5	31.5	31.5	27.4	9.6	2.7	41.1	9.6	
		80歳以上	37	18.9	18.9	32.4	27.0	5.4	2.7	27.0	24.3	

※男女ともに30人に満たない年齢層は、人数が少ないので、参考として掲載するのみに留め、文中では述べていない。

※図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を■で区別するようにした。

男性では「心臓病」は40歳～60歳代、「誤嚥性肺炎」は60歳代、「糖尿病」は40歳代で、それぞれ3割台半ばで高くなっている。女性では、50歳代、60歳代で高い項目が多く、50歳代で「心臓病」「糖尿病」、60歳代で「動脈硬化」「誤嚥性肺炎」が4割台半ばとなっている。また、「知らない」は男性の30歳代で約5割、女性の20歳代で約6割と最も高く、男性においては年齢が上がるにつれ減少している。(図表Ⅲ－8－16)

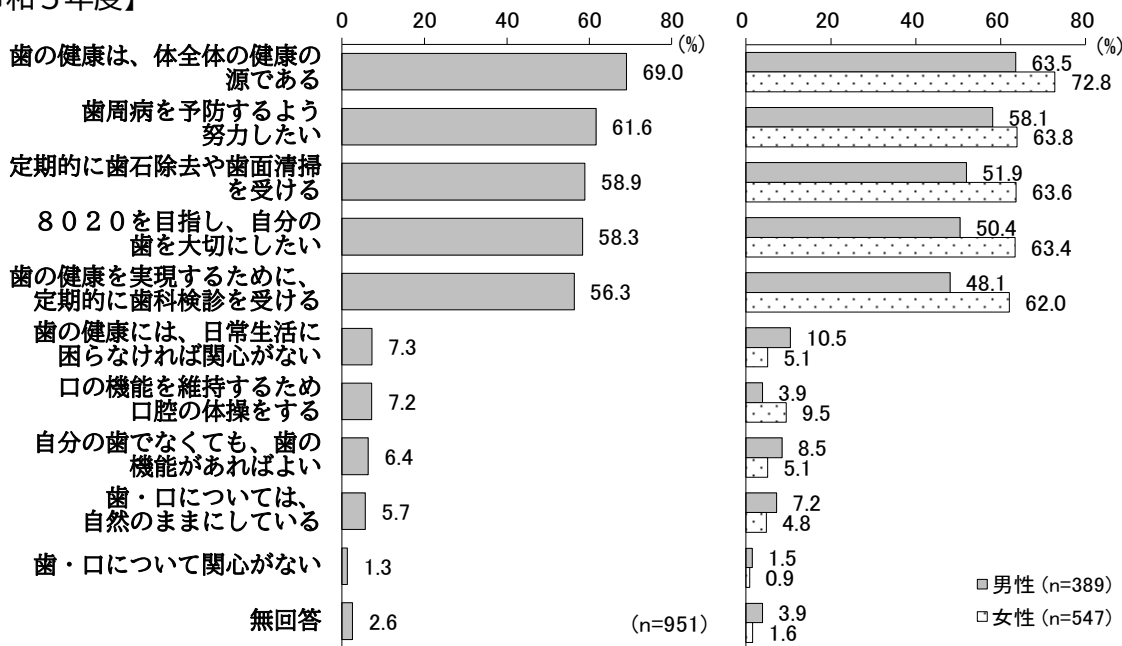
(9) 歯・口の健康に対する考え

◇「歯の健康は、体全体の健康の源である」が約7割機能

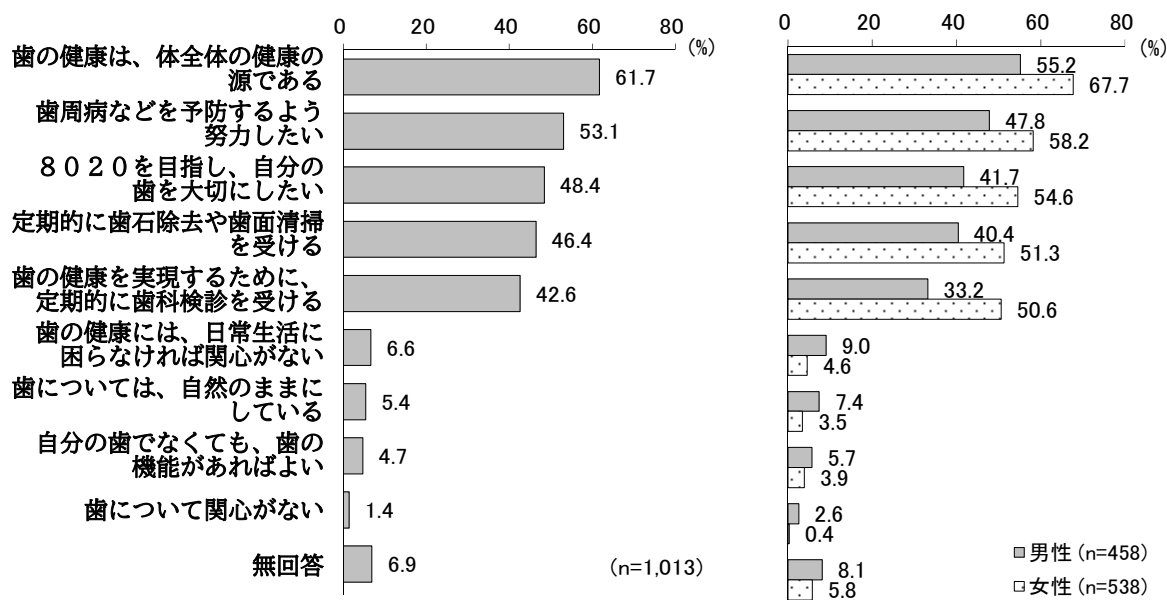
問57 あなたは、歯・口の健康についてどう考えますか。(○はいくつでも)

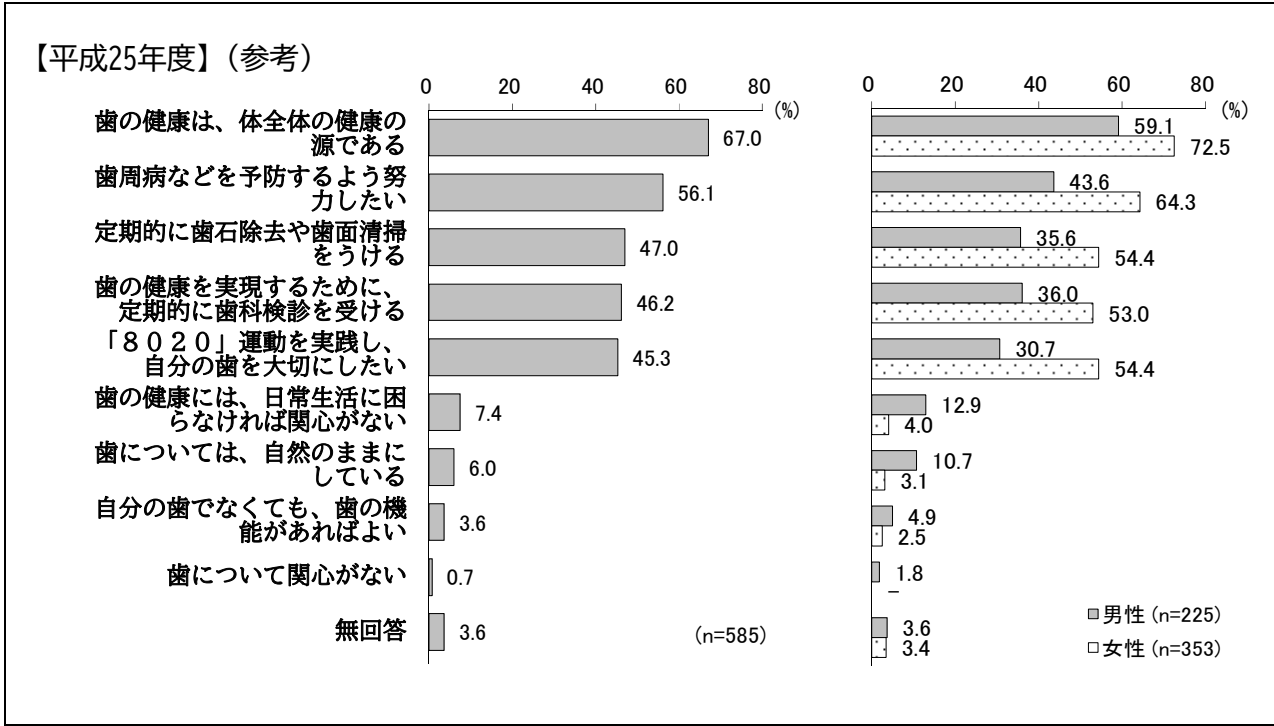
<図表Ⅲ-8-17> 歯・口の健康に対する考え

【令和5年度】



【平成29年度】(参考)





歯、口の健康に対する考えを聞いたところ、「歯の健康は、体全体の健康の源である」（69.0%）が約7割と最も高く、次いで「歯周病を予防するよう努力したい」（61.6%）が6割を超え、「定期的に歯石除去や歯面清掃をうける」（58.9%）と「8020を目指し、自分の歯を大切にしたい」（58.3%）が約6割、「歯の健康を実現するために、定期的に歯科検診を受ける」が5割台半ばとなっている。

性別でみると、「歯の健康は、体全体の健康の源である」が男女ともに最も高く、男性は6割台半ば、女性は7割を超えている。また、上位5項目すべてで女性が男性より高く、「8020を目指し、自分の歯を大切にしたい」と「歯の健康を実現するために、定期的に歯科検診を受ける」が13ポイント、「定期的に歯石除去や歯面清掃をうける」が11ポイント、「歯の健康は、体全体の健康の源である」が9ポイント、「歯周病を予防するよう努力したい」が5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「歯の健康には、日常生活に困らなければ関心がない」は男性が女性より5ポイント高く、1割となっている。

過去の調査結果と比較すると、上位5項目は全体、男女とも増加していて、10ポイント以上の項目をあげると、全体の「歯の健康を実現するために、定期的に歯科検診を受ける」が13ポイント、「定期的に歯石除去や歯面清掃をうける」が12ポイント増加し、「歯の健康を実現するために、定期的に歯科検診を受ける」は男性で14ポイント、女性で11ポイント、「定期的に歯石除去や歯面清掃をうける」は男性で11ポイント、女性で12ポイント、「歯周病を予防するよう努力したい」は男性で10ポイント、それぞれ増加し、意識の高まりがうかがえる。（図表Ⅲ－8－17）

9 健康づくり事業について

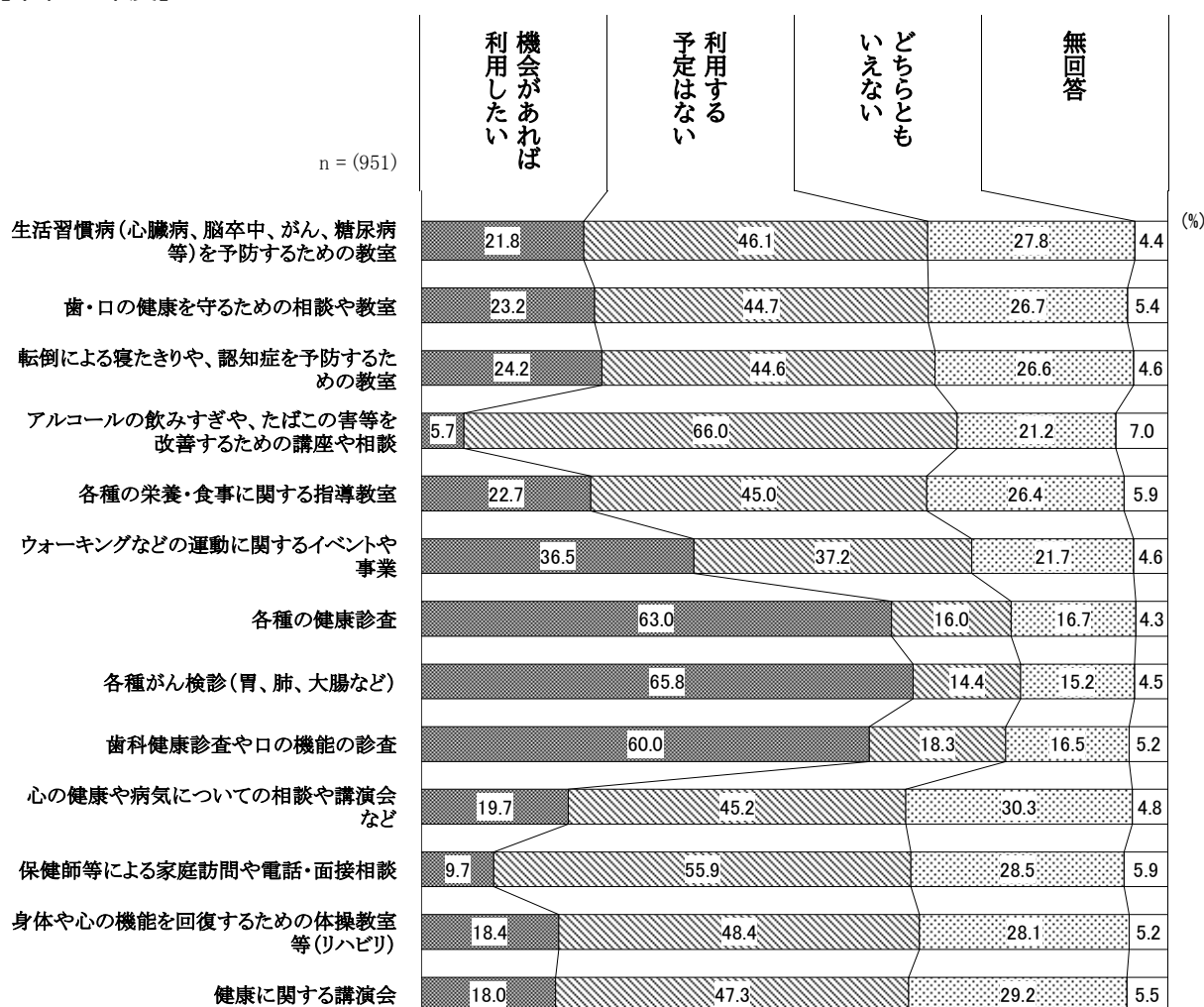
(1) 健康づくり事業の利用意向

◇機会があれば利用したいのは、「各種がん検診」と「各種の健康診査」で6割台半ば

問58 あなたは、今後、次のような事業を利用したいと思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

<図表Ⅲ-9-1>健康づくり事業の利用意向

【令和5年度】

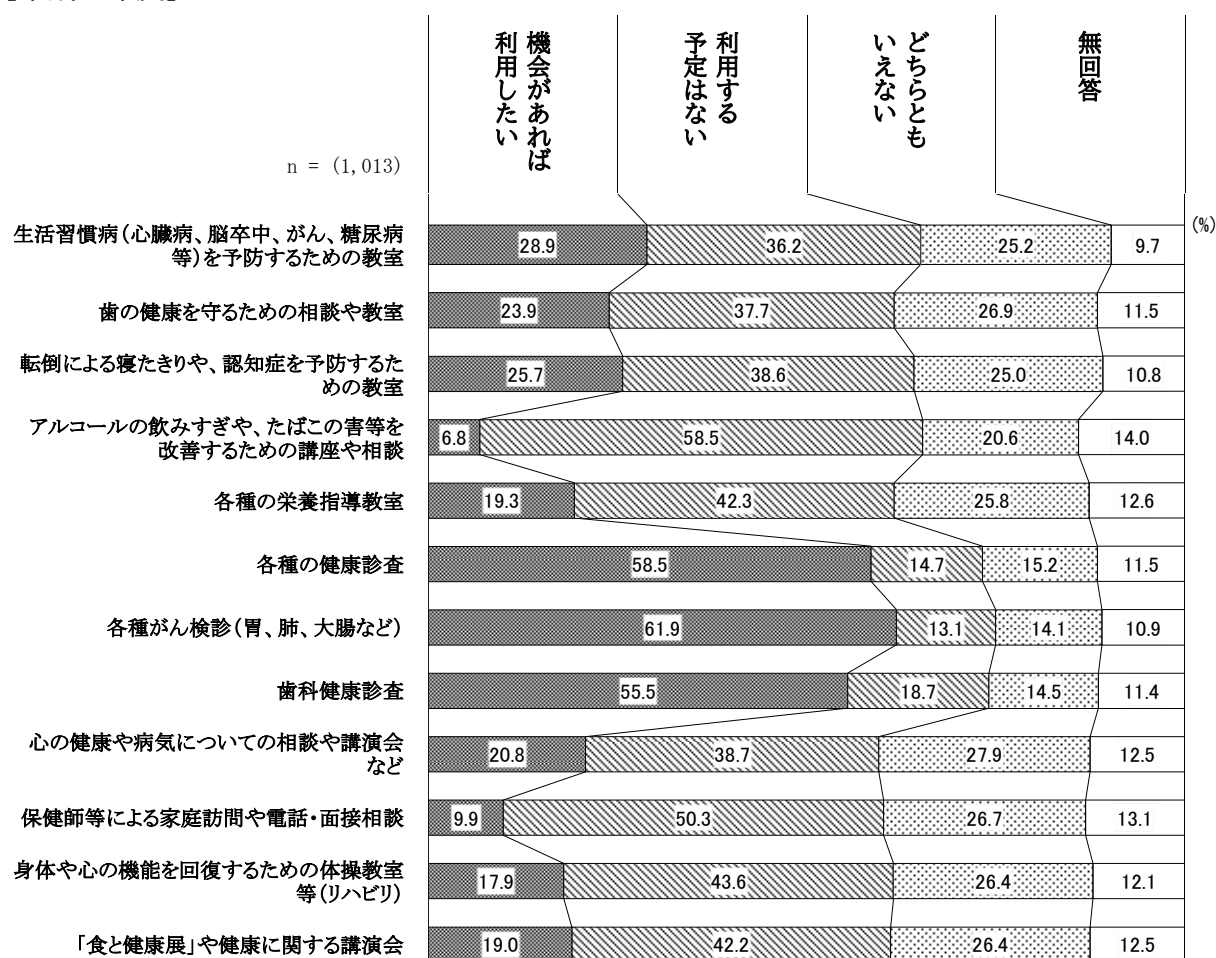


健康づくり事業の利用意向として、機会があれば利用したいのは、「各種がん検診(胃、肺、大腸など)」(65.8%)と「各種の健康診査」(63.0%)が6割台半ばで高く、「歯科健康診査や口の機能の診査」(60.0%)は6割となっている。

一方、利用する予定はないのは、「アルコールの飲みすぎや、たばこの害等を改善するための講座や相談」(66.0%)が6割台半ばで最も高く、次いで「保健師等による家庭訪問や電話・面接相談」(55.9%)が5割台半ば、「身体や心の機能を回復するための体操教室等(リハビリ)」(48.4%)と「健康に関する講演会」(47.3%)は約5割となっている。(図表Ⅲ-9-1)

<図表Ⅲ－9－2>

【平成29年度】



平成29年の調査結果と比較すると、「生活習慣病(心臓病、脳卒中、がん、糖尿病等)を予防するための教室」は、機会があれば利用したいが7ポイント減少している。また、利用する予定はないで増加している項目は、「生活習慣病(心臓病、脳卒中、がん、糖尿病等)を予防するための教室」で9ポイント、「アルコールの飲みすぎや、たばこの害等を改善するための講座や相談」で7ポイント、「心の健康や病気についての相談や講演会など」で6ポイントなどとなっている。なお、「歯・口の健康を守るための相談や教室」も7ポイント増加をしているが前回調査とは表記が異なるので参考に留める。(図表Ⅲ－9－2)

10 自由回答

★今後の保健衛生事業・健康づくり・計画へのご要望・ご意見・ご提案等ございましたら、ご自由にご記入ください。

区への意見や要望に対しては、146人から延べ170件の回答が寄せられた。ここでは、意見や要望を分類し、各項目別で記載した。

なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、複数回答として、それぞれを各テーマに分類している。

【健康づくり・健康意識】 36

健康に関する教室やイベントの充実	13
健康についての考え	12
自分の健康状態	7
予防接種の充実	4

【健康診断】 25

健診項目の増加、内容・検査方法の充実	9
健診の補助金について	6
無料・低料金の健診の希望	4
手軽に受けられる健診の希望	4
健診催促や診断結果の通知を希望	2

【区役所・行政】 19

行政・区役所の取り組みの充実	13
区への感謝	6

【環境】 18

禁煙・分煙の推進・強化	9
公共施設の衛生管理	5
自然環境の整備	4

【医療】 12

医療に関する機関や制度の整備・充実	6
休日・夜間診療の医療施設の充実	2
保険適用について	2
医師の対応	2

【情報提供】 10

病気や健康に関する情報提供の充実	5
各種健診・保健所事業のPR強化	3
情報提供手段の充実	2

【健康づくり施設】	9
健康・スポーツ施設の整備・充実	7
施設を無料・低料金で利用できるように	2
【福祉】	2
高齢者が健康に生活できる支援	2
【保健所】	2
相談所の整備・充実	2
【その他】	37
アンケートに関して	21
その他	16

